2023（令和5）年度 部局マニフェスト
～私たちの組織使命と目標～

部局名	産業振興部
役　職	部長
氏　名	堀　久仁寿
連絡先	0595-22-9712(内線2550)

業績目標の達成状況
5. 先進的な取り組みを行い、成果があった
4. 達成水準を上回る成果があった
3. 業績目標を達成した
2. 取り組んだが、業績目標を達成しなかった
1. 業績目標に取り組まなかった

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段		達成状況（自己評価）	理由
◎部局目標1	関連の施策・基本事業No　3-1・①					
1.観光客を呼び込み、もてなすことにより産業としての観光を確立する	観光地域づくり法人（DMO）を中心とした適切な役割分担による持続可能な観光まちづくりの体制づくり	〈現在の状態〉 伊賀市、伊賀上野観光協会との間で観光まちづくり推進に関する協定を締結し、 伊賀市・伊賀上野観光協会・上野商工会議所・伊賀市商工会の4者による、トップ会議（年1～2回）、推進PT会議（年4回）、業務別WG会議（月2回）を開催し、事業を進めている。 ↓ 〈達成目標〉 観光振興ビジョンに基づく持続可能な観光まちづくりを実現するための体制により3事業（イガコレ・歴史的資源を活用した観光まちづくり推進事業・観光人材育成事業）を実施する。 ※目標が達成した状態 ・適切な役割分担のもと、業務や事業を執行できている。 ・個別事業ごとに関係する事業所、団体が事業推進会議や事業実施のためのWGに参画し、情報共有ができている。	・地域おこし協力隊を雇用し、事業実施のための指導育成を行う。 ・DMOの組織体制、会議の在り方を整理し、事業推進会議や担当者WGに、プロジェクトごとに事業者等利害関係者に加盟してもらい、事業を進めていく。 ・持続可能な観光まちづくりをテーマにしたイベントをDMOと役割分担し、開催する。	▶	3	観光まちづくりを推進するための事業として、DMOを中心とし、達成目標に掲げている3事業をスケジュールどおり実施した。 さらに、歴史的資源を活用した観光まちづくり事業を実施する中で、DMOの体制再構築のための関係者の目線合わせができ、具体的な方向性を決めるための協議をする準備が整いつつある。
◎部局目標2	関連の施策・基本事業No　3-1・①					
1.観光客を呼び込み、もてなすことにより産業としての観光を確立する	新しい生活様式に対応した観光の振興	〈現在の状態〉 DXを活用した取り組みとして、三重県観光マーケティングデータベースとの連携によるスマホアンケートの実施やメディア露出状況のモニタリングを行っている。 イベントでキャッシュレス化の実証実験を行った。 ↓ 〈達成目標〉 収集したデータを活用、分析し、これらの結果を踏まえた観光コンテンツの造成を行うことにより、リピーター率を60%に増加させる。 ※目標が達成した状態 データマーケティングの分析結果を活かした観光商品の造成ができ、リピーター率が60%に到達している。	・地域おこし協力隊を支援することにより、データマーケティングを活用したより良い観光商品の造成を行い、リピーター率を上げる。	▶	2	令和5年9月末現在のリピーター率は53.74%にとどまっている。来街者の満足度に繋がる要因等を分析し、観光コンテンツ造成に活かす取り組みの強化が必要である。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段		達成状況（自己評価）	理由
◎部局目標3	関連の施策・基本事業No　3-1・② 3-4・①					
1.観光客を呼び込み、もてなすことにより産業としての観光を確立する	にぎわい忍者回廊プロジェクトの推進 旧上野市庁舎利活用事業の推進	〈現在の状態〉 ・忍者体験施設の基本設計（案）の提出を受けた。 ・新図書館の基本設計を事業者において策定中。 ↓ 〈達成目標〉 事業者においてスケジュールどおり ・実施設計が完了する （忍者：R5.10、新図書館：R5.11） ・整備・改修工事に着手する （忍者：R5.11、新図書館：R5.12） ・大阪関西万博を見据え、開業に向けて準備を行う ※目標が達成した状態 整備または改修工事が順調に進んでいる。	・SPCと緊密な連携を図り事業の進捗管理を行う。（庁内関係課とSPCで組織している忍者部会及び図書館部会、建築部会において具体的な協議や進捗管理を行う。） ・事業者の設計が要求水準を満たしていることを確認し、設計を承認する。 ・両施設の周辺や両施設をつなぐ動線について、事業者から受け入れ態勢の整備のための提案を受ける。	▶	3	忍者体験施設、新図書館とも実施設計が提出された。 両施設とも提出された実施設計が要求水準を満たしていることを確認できたため承認し、工事に着手している。 大阪関西万博を見据え、開業に向けた準備として広報等についてSPCと役割分担を確認した。
◎部局目標4	関連の施策・基本事業No　3-2・①					
2.自然と共存し、人と人がつながり、農業を元気にする	持続可能な食料システムの構築	〈現在の状態〉 ・化学農薬、化学肥料を使用している慣行農業の比率が高くなっている ・現場の労働力不足、収量・品質の低下 ↓ 〈達成目標〉 ・有機農業について、生産から消費まで一貫し、かつ農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ取組を推進するため、（仮称）伊賀市オーガニックビレッジを宣言する ※目標が達成した状態 ・有機農業推進のモデル的先進地区のが創出される ・労働力不足が解消され、収量・品質が向上する	・農業者、事業者、地域内外の消費者、専門家等から意見の聴取を行うなど検討会を2回以上開催する。 ・生産、加工、流通及び消費な各段階における試行的な取り組みを実施する。 （リモコン式除草機等による雑草管理沿推進、ドローンによる農薬散布の普及面積の拡大）	▶	3	「伊賀市有機農業推進会議」を6月と11月に開催し、まずは、関係者から意見聴取を行い、2回目の会議では「オーガニックビレッジ宣言」に繋げるための「有機農業実施計画」の検討を行った。 また、実践に繋げるべく、生産者や消費者から現状や課題を共有することができた。 「有機農業実施計画」は1月に提出することとしており、3月に「オーガニックビレッジ宣言」を行う予定であったが、令和6年7月ごろとなる見通し。
◎部局目標5	関連の施策・基本事業No　3-2・④					
2.自然と共存し、人と人がつながり、農業を元気にする	食育計画の推進	〈現在の状態〉 令和4年11月に伊賀市食育推進計画を策定した。 ↓ 〈達成目標〉 ・伊賀市食育推進計画庁内検討会議で作成する取組の指標による達成目標（食育に関心のある市民の割合の増加　令和2年度83.2%　令和5年度目標85%）を達成目標とする ※目標が達成した状態 食育が計画的に推進され、市民の「健全な食生活」が実現される。さらに、令和7年度に計画の見直しを行う基礎資料が整う	・伊賀市食育推進計画に記載された各課の取組に対して指標の設定を行い、eモニター制度を活用して調査を実施するとともに、伊賀市食育推進計画庁内検討会議にて毎年度達成状況のチェックを行う。	▶	3	計画に基づく各課の取組指標の設定については完了している。 広く食育に対する意識調査を行うことを行うため、若者会議と連携を図り、イベント等で意識調査を行った。また、より多くの方からの回答が見込める若者会議のSNSフォロワーに向けて調査を実施した。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段		達成状況（自己評価）	理由
◎部局目標6	関連の施策・基本事業No　3-2・①					
2.自然と共存し、人と人がつながり、農業を元気にする	伊賀産まれ伊賀育ちの伊賀牛生産体制の確立	〈現在の状態〉 伊賀産牛が17頭、市内農家で肥育されており、今年度秋頃に第1号が出荷される見通しである。 ↓ 〈達成目標〉 ①伊賀産牛の出荷体制の確立 ②適齢に達した伊賀産牛の全頭出荷を目指し、現在1経営体の伊賀産牛受け入れ肥育農家を2経営体以上に増やす。 ※目標が達成した状態 伊賀牛の付加価値の向上。畜産農家の経営的負担軽減を図ることで、伊賀牛の増頭とブランド力の強化が図られる。	・伊賀地域内で不足している素牛育成に関する技術・知見を素牛育成農家に取得していただく。 ・関係団体（肥育農家、協議会、JA等）と協議を進める	▶	3	肥育農家にて肥育されているモデル牛（伊賀牛）は順調に出荷されている（令和5年12月14日現在、出荷済み3頭、年内出荷予定3頭）。10月に出荷1号牛を記念・顕彰したイベントを実施した。 しかし、飼養にかかる資材価格の高騰の影響等により子牛の市場価格が下がっており、子牛農家から供給される子牛の価格が折り合っていないことから、子牛農家から肥育農家への引継ぎが止まっていることが課題。 子牛の供給価格と市場価格が折り合ってきたときに、モデル牛の子牛を受け入れる肥育農家を増やすため、市内肥育農家と個別に事業に対する理解を得るため面談を行い、2経営体の受入が可能となった。
◎部局目標7	関連の施策・基本事業No　3-3・①					
3.森林や里山を大切にし、林業を元気にする	森林環境保全の啓発と整備	〈現在の状態〉 林業労働者の高齢化・後継者不足、山林所有者の管理不足等により市内山林は荒廃している場所が増加し、森林の多面的機能が低下している。各地域の森林精通者の高齢化に起因する地域の森林情報が消失しつつある。 ↓ 〈達成目標〉 森林経営管理制度モデル地区で意向調査を約400ha実施する。 ※目標が達成した状態 その取組を他地域へ波及させることにより、適正な管理がなされた山林が増加する。	森林所有者の森林経営の意向に関する調査業務を、市内の森林情報を把握している森林組合と連携し、昨年度より規模を拡大し実施する。	▶	3	今年度は森林経営管理制度モデル地区において意向調査の3ヵ年計画の最終年度として調査業務を進めるにあたり、委託契約408．65haを実施できた。今後は早急に調査業務を進める。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段		達成状況（自己評価）	理由
◎部局目標8	関連の施策・基本事業No　3-3・②					
3.森林や里山を大切にし、林業を元気にする	伊賀産材の利用拡大	〈現在の状態〉 市内山林で伐採された原木は、価格の低迷もあり、搬出されずに切捨てられたままとなっている事が多い。 ↓ 〈達成目標〉 伊賀産材を市内の原木市場、製材所等への出荷を促進し、本年度の出荷量を27,000㎥以上確保する。 ※目標が達成した状態 伊賀産材の安定供給を恒常的に継続することで価格を安定させ、市内の消費需要の増加にも対応できる。	・新たに交付する森林作業道整備事業補助金により、森林施業及び木材の集材・搬出を促進する。 ・伊賀産材ブランド化事業補助金の活用を推進する。 ・原木市場事業者と連携し、林業者へ出荷を促す取り組みを行う。 ・補助金制度について、ホームページや広報等に掲載することにより、広く情報提供し、事業活動を推進する。さらに、補助事業の利用を紹介することによる実例の情報提供を行う。 ・伊賀市未来の山づくり協議会 人材育成部会において、林業者の人材育成施策を検討する。 ・伊賀産材を利用した木質化された店舗などによる地域材の活用の促進	▶	2	・新設の森林作業道整備補助金については、現時点で申請が多数あり、林業者間でも関心が高く、今後森林施業及び木材の集材・搬出の促進が見込まれる。 ・伊賀産材については市場への出材量は増加傾向にあるが、出荷数に比べ補助金申請数が減少している。なお、原因の一つとされる申請事務手続等の改善を市場や委託先事業体へ申請の体制協力を行った。 ・伊賀市未来の山づくり協議会においては、人材の育成に向け、自伐林家の担い手育成に向け林業事業体等との連携を進め、地域おこし協力隊の雇用に向けて検討をしている。また、令和6年度から伊賀産材の地域内利用の促進として、テナント店舗等の木質化モデル創出事業補助金の制度運用に向け、先進地である豊田市への視察等を行い、具体的な補助金案の改善の協議を行っている。また、補助事業の推進としてチラシの作成や配布、情報提供としてホームページの更新等を随時行った。 令和5年度の出荷量は、24,672㎥であった。
◎部局目標9	関連の施策・基本事業No　3-4・①					
4.中心市街地の賑わいをつくる	第2期伊賀市中心市街地活性化基本計画に基づく事業推進及び進捗管理	〈現在の状態〉 第2期伊賀市中心市街地活性化基本計画期間が終了 2023（令和5）～2024（令和6）年度までの2年間計画期間を延長した。 ↓ 〈達成目標〉 ・第2期計画の課題抽出、計画事業の整理・仕分け・総括を行う。 ・第3期計画の中間案を策定する。 ※目標が達成した状態 第3期計画で目指すべき中心市街地活性化の基本方針が定まっている。	・庁内推進会議、中心市街地活性化協議会を年2回以上開催し、計画事業の進捗状況や課題を情報共有し、改善策や他事業との連携について協議検討する。 ・民間主体の新規事業の掘り起こしに向け、中心市街地活性化協議会へのバックアップを行う。 ・第2期計画における課題をふまえ、第3期計画の中間案を策定する。	▶	4	第2期計画の総括を行い、第3期計画の中間案を策定した。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段		達成状況（自己評価）	理由
◎部局目標10	関連の施策・基本事業No　3-5・②	〈現在の状態〉 ゆめが丘に隣接する上野南部丘陵地における民間大規模開発計画予定地への産業誘致を推進している。 ↓ 〈達成目標〉 進出企業確保のため、伊賀市工場誘致条例に基づく奨励措置の拡充見直しを進めるとともに、継続して企業進出意向調査を実施し、10社以上の有意企業を訪問できている。併せて優先開発エリアにおける建設部の開発認可申請手続きができている。 ※目標が達成した状態 上野南部丘陵地内において、開発促進が行われ、雇用の確保が推進される。	事業計画地への企業進出に関する有意性の広報活動（企業訪問及び大都市圏での誘致セミナー、WEB媒体積極活用）や、産業振興条例に基づく意見交換の場等において地元企業に奨励金等のニーズについて聴き取るなど、進出企業の確保及びインセンティブの整備を行う。	▶	3	事業計画地への立地企業の進出内諾を得るべく、11月末までにWEBセミナーを1回開催した。また、企業アンケートの有意回答企業等6社を訪問し情報提供を行った。3月末までに大阪での対面式の企業誘致セミナーと残り2回のWEBセミナーを開催するとともに、12社の企業を訪問し、企業進出の意向聴き取りと情報提供を行った。
5.地域の特性を活かし、商工業活動を盛んにする	産業用地の確保と企業誘致の推進					
◎部局目標11	関連の施策・基本事業No　3-5・①	〈現在の状態〉 現在、伊賀ブランド「IGAMONO」として57事業者93産品認定し、情報発信するとともに販売促進・販路拡大・商品開発など官民協働で取り組んでいる。 特に、伊賀ブランド振興会ではオンラインストアを開設し認知度向上・販売促進に取り組んでいる。 ↓ 〈達成目標〉 オンラインストアの販売額を前年度比、20%増加させる。 ※目標が達成した状態 オンラインストアでの販売額を増加させる。	オンラインストアの販売額を増加させるため、認定事業者同士のコラボ商品企画などストアの商品を魅力あるラインナップに揃える取り組みや、送料無料キャンペーン、市内外のイベント等でのプロモーション、ふるさと納税返礼品への出品など、ストアの閲覧回数を増やす取り組みを官民協働で行う。	▶	3	市内外のイベントや百貨店等でのPR、送料無料キャンペーン、ふるさと納税とのコラボなど様々な取り組みを官民協働で行い、オンラインストアの販売額を前年度比50%増加させた。
5.地域の特性を活かし、商工業活動を盛んにする	伊賀ブランドのブラッシュアップと販路拡大					

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段		達成状況（自己評価）	理由
◎部局目標12 6.働く人の意欲に応え、地域ぐるみで創業を支援する	関連の施策・基本事業No　3-5・① 起業・創業の促進	〈現在の状態〉 新たな事業主体の創出及び市内事業者の経営革新を促進し地域経済の維持・発展を図るため、改修費等に要する経費を補助する「伊賀市起業・経営革新促進事業」を実施している。また、「ゆめテクノ伊賀」に起業家を支援するためのインキュベーション室を設置し、産学官連携により新事業創出を支援している。 ↓ 〈達成目標〉 市内で起業する事業者5件以上を目指す。 ※目標が達成した状態 起業が促進されることにより地域の活性化が図られる。	今年度から、募集・審査会を定期的に実施し、例年以上の起業ニーズに対応する。 また、商工団体やゆめテクノ伊賀、地元金融機関等と協働し起業・創業サポートを行うとともに、住民自治協議会や商店街組織、庁内では移住定住、住民自治、空き家対策などの関係部課とも連携し起業希望者に情報提供を行う。	▶	4	伊賀市起業・経営革新促進事業に応募、または伊賀市創業支援等事業計画に基づく支援を受けて、16件の事業者が市内で起業した。
◎部局目標13 6.働く人の意欲に応え、地域ぐるみで創業を支援する	関連の施策・基本事業No　3-5・② 就労支援と労働力の確保	〈現在の状態〉 地元企業の雇用確保を目的として、例年、名張市と連携した「伊賀市・名張市合同企業説明会」を開催している。前年度は甲賀市と連携し、「甲賀伊賀地域就職面接会」を新たに開催した。 ↓ 〈達成目標〉 名張市との連携事業では、令和4年度の3月に1日程2部制で開催し、参加企業60社、求職者150人の参加があった。甲賀市との連携事業では、令和4年度の2月に開催し、参加企業22社、求職者86人の参加があった。目標を85企業、求職者250人以上を目標とする。 ※目標が達成した状態 地元企業の雇用と就労先の確保を図る。（労務対策協議会及びハローワークによる内定者数の追跡調査により把握）	伊賀市、名張市、上野商工会議所、伊賀市商工会、名張商工会議所（伊賀市、甲賀市、ハローワーク伊賀、ハローワーク甲賀）や伊賀城和定住自立圏域連携町村、当市の移住コンシェルジュ等が連携し、企業説明会の周知を効果的に行う。	▶	3	11月に甲賀市・ハローワーク伊賀・ハローワーク甲賀と連携し就職面接会を開催。企業20社（抽選 ※申込88社）、求職者77人の参加があった。3月には名張市・上野商工会議所・名張商工会議所・伊賀市商工会と連携し合同企業説明会を開催した。企業70社、求職者延べ100人が参加した。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段		達成状況（自己評価）	理由
◎部局目標14	関連の施策・基本事業No　2－1・④	〈現在の状態〉 伊賀市では、多くの防災重点農業用ため池が存在する。このうち利用の無いため池については、維持管理不足から決壊時における人的被害が懸念されている。 ↓ 〈達成目標〉 本年度において、防災重点農業用ため池を2池廃止する。 ※目標が達成した状態 利用が無く、維持管理されていないため池を廃止することで、当該地域住民の安全性の向上を図る。	ため池の所有者・受益者など地元調整を充分に行い、市及び地元負担軽減の観点から、国補事業による廃止事業を実施する。	▶	3	農業水路等長寿命化・防災減災事業を活用し利用のない防災重点農業用ため池2池の廃池工事が完了した。
7.ため池の適正管理を図る	利用の無い防災重点農業用ため池の廃止					
◎部局目標15	関連の施策・基本事業No　3-1・①	〈現在の状態〉 前年度は営業本部会議を2回開催し、取組方針や各課が実施するイベント等の実施状況を確認したが、目標の共有や達成に向けた調整機能が十分に発揮できていない状況である。 ↓ （達成目標） 伊賀の魅力を効果的に伝える情報発信を伴う事業を20事業実施する。 ※目標が達成した状態 営業本部会議が定める年度目標を達成していくことを通じて、職員の営業に関する意識が高まるとともに、各部局から相談を受け、信頼される組織となる土台が整っている。	・本部会議を年度当初、予算編成前、年度末の年3回開催し、年度目標の設定及び進捗状況の確認、成果の検証を行うとともに、推進チーム会議を随時開催し、連携の強化を図る。 ・関西圏や首都圏等におけるイベントや情報発信に関して最大効果が発揮できるよう調整を行う。	▶	4	本部会議を計画通り開催するとともに事務局会議や推進チーム会議を随時開催し、部を横断した連携の強化を図った。関西圏や首都圏等におけるイベントや情報発信に関して最大効果が発揮できるよう調整を行い、営業本部の重点取組みに関連した、伊賀の魅力を効果的に伝える情報発信を伴う事業を37事業実施した。
伊賀市を知ってもらい、好きになってもらい、選んでもらう人を増やす	営業本部の推進					